したりしている。

ることができる ここに当時の人びとの生活と宗教の強いかかわりあいを見

月例会

平成五年

慶応義塾医学所・成医会講習所」について 明治初年の私立医学校「済生学舎

沢 信 安

学教育の統一論)を起こし、

済生学舎の廃校を目標にして高等

反対同盟は「明治医会」と改称し、私立医学校撲滅運動

(医

唐

発展史について述べることにする。 かけて繁栄した済生学舎、慶応義塾医学所、 官尊民卑の時代に私立医学校として、明治初期から中期 成医会講習所の K

済生学舎

大学裏)に創立された。初期の教師は、長谷川泰 月九日、長谷川泰により本郷元町一丁目六十六番地(現順天堂 現在の日本医科大学の源流の「済生学舎」は、明治九年四

ものである。

現在の信濃町にある慶応大学医学部は大正六年に造られた

山崎元脩準医学士の三人の教師を中心に開校された。 区医学校長・三十三歳)と弟の長谷川順次郎準医学士・同郷の

医学専門学校・済生学舎」と称し、東京府知事と文部省に届 に学校を湯島四丁目に移転している。)更に明治十七年に「東京 十四名在学し、教師は十六名に達した。(長谷川泰は明治十五年 明治十七年には全国から医学を志す学生が集まり、四百八

学内も次第に充実し、

吉岡弥生が明治二十二年から二十五

争後のインフレで学生が減少し、

継続不能となった。

西南戦

廃校となった。その間三百余名の卒業生を出したが、

経営が急激に悪化し、

経営危機に陥ったため、慶応医学所は

胤道等六十名は「医師会法案反対同盟」を造り激しい反対運 出された。この時、東京大学医科大学の教授入沢達吉、青山(会長高木兼寛・会員四万人)から「医師会法案」が国会に提(会長高大東の時、東京大学を持ち、東京の時、東京の時、東京の時、東京の時、東京の時、東京の 動を起こした。その結果貴族院で否決され廃案に持ちこまれ 年八月三十日迄、 明治三十一年暮から明治三十二年にかけて「大日本医会 約一年間済生学舎に学んでいる 年まで在学している。野口英世も明治二十九年十月より三十

独り苦しんだ長谷川泰は、 勅令の型で発布し、済生学舎の存続を文部省は認めなかった。 教育会議で協議をした。明治三十六年三月「専門学校令」を 二、慶応義塾医学所 ついに「廃校宣言」を出した。

等が助けた。七年間続いたが、明治十三年本校の慶応義塾の ンの教科書を用いた。医学所は新宮凉園、 医学科を設けた。修業年限は二ケ年で、主としてハルツホ の上、慶応義塾の一分科として、松山棟庵の自由裁量の下で しかし明治六年十月に、福沢諭吉は高弟の松山棟庵と協議 杉田武、 松山誠 ル

> (108)396

た。天皇より三万円の御下賜金があり、財界より三百万円の部省の認可が下り、信濃町の二万坪の軍用地の払下げを受けその後大正五年十二月、北里柴三郎の新しい構想の元に文

三、成医会講習所

寄附が集り、今日の慶応大学医学部が誕生した。

ント・トーマス病院医学校の様式をとり入れて造られた大学現在の東京慈恵会医科大学は、高木兼寛により留学先のセ

の慈善病院である慈恵医院を造った。の秘善病院である慈恵医院を造った。

年五月一日、「成医会講習所」を京橋区鎗屋町の東京医学会社し、優等生で卒業した。高木兼寛は帰国した翌年の明治十四と、優等生で卒業した。高木兼寛は帰国した翌年の明治十四海軍に入り、恩師石神良策と英人医師ウイリアム・アンダー海軍に入り、恩師石神良策と英人医師ウイリアム・アンダー海軍に入り、恩師石神良策と英人医師ウイリアム・アンダー海軍に入り、恩師石神良策と

限は四年で、明治二十四年四月に海軍軍医学校と分かれ独立医学校)」と同居した。講義は主に海軍軍医が行った。修業年明治十五年十一月から二十四年一月まで、「海軍医務局学舎(軍

の一室を借りて夜学で開校した。次いで天光院に一時移転

(平成五年三月例会)三字校」に昇格した。 (平成五年三月例会)明治三十六年には教育も充実し、「私立東京慈恵医院医学専明治三十六年には教育も充実し、「私立東京慈恵医院医学専

※ 紹介

Takeo NAGAYO:

History of Japanese Medicine in the Edo Era-Its social and cultural backgrounds.

年)はその代表的なものである。 年)はその代表的なものである。 を和ほど多くはない。この「情報の貧困さ」のためであろう それほど多くはない。この「情報の貧困さ」のためであろう をってもドイツの出版社によりそのまま再出版されている。 なってもドイツの出版社によりそのまま再出版されている。 なってもドイツの出版社によりそのまま再出版されているも あちろん、グローバルな観点から人類の医学とその歴史を描 のもある。たとえば「Histoire de la Medicine,de la Pharmacie, のもある。たとえば「Histoire de la Medicine,de la Pharmacie,

tional Japan」(東京、一九八九年)は最近出版された力作であ学史の一環として日本医学の歴史的発展を追及している。日本のみに焦点を合わせ、科概略的なものに留まっている。日本の紹介はきわめて一般的、ページ数などに制約があって、日本の紹介はきわめて一般的、いージ数などに制約があって、日本の紹介はきわめて一般的、ページ数などに制約があって、日本の紹介はきわめて一般的、ページ数などに制約があって、日本の紹介はきわめて、その範囲、目標、

かなりの専門的知識を必要とし、

恐らく知日派の主要